

大船山

第 18 号

令和5年1月27日

ホームページ <http://www.ena-gif.ed.jp/kamiyahagi-e/>

不自由さに打ち勝って得られるもの

校長 細江 幸次

新年もすでに1カ月が過ぎようとしています。年齢からくる焦りからか、とにかく一日、一カ月の過ぎ去り方が年々加速しているように感じています。そう感じるからこそ、時間を大切に無駄なく使いたいと思いつつも、浪費している自分があるのも確かなこと。社会の一員として生活している以上、自分の都合ばかりを優先させることはできず、時には自分の気持ちを奮い立たせてやらなければならない時も往々にしてあります。

今年9月にラグビーワールドカップが開催されます。前回大会で日本はかつてない大躍進を果たしたことで今大会にも大きな期待がかかっているようです。そのためか、年明けから社会人や大学ラグビーがテレビでもよく取り上げられ、目にすることも多くなってきました。ラグビーは15人という最も多い人数で行う団体種目であり、ボールを前に投げるのが反則となるため、ボールをもって走りながら自分より後ろにいる味方にパスをしながらゴールを目指すことになります。ボールを前に出すとしたら蹴るしかないのですが、楕円状の形をしているため、どこに転がっていくかわかりません。ボールをもって走るにしても敵がそれを阻止しようと猛然と体当たり(タックル)をしてくるので、その恐怖との戦いもあります。こう書いてみると、ラグビーとは何とも不自由極まりない競技に思えてきます。しかし、チーム内の2m、100kgの巨漢から160cm余の小兵選手それぞれの適性を活かし、明確に分かれている15人それぞれの役割をきちんと果たすことによって、その不自由さを乗り越える瞬間があります。不自由さを感じる背景があるためか、ゴール(トライ)をした時の盛り上がりは競技を行っている当事者だけでなく、見ている者にも大きな感動をあたえるのではないかと感じています。「スクラム」「一人はみんなのために、みんなは一人のために(One for all, All for one)」や近頃では日本代表のスローガン「One team」といったラグビーで使われる言葉が一般にも広く使われているのは、この競技が集団としての在り方を示唆しているからなのかもしれません。そして、一人で成しえるのは難しくても仲間と力を合わせることによって広がる可能性と集団の中の一員としての自分の在り方も教えているようにも感じます。

学校の中にも様々な個性があり、個々の得意不得意があります。自分一人でやっていては感じられない面白さや喜びが集団生活にはあります。残り2カ月ほどとなった今年度の学校生活で、58人の上矢作っ子に1つでも多くそれらを感じ取って一年を締めくくってほしいと思います。

上矢作っ子の活躍

* 校内書き初め展 金賞 1年 田中美咲 2年 鈴木拓馬 3年 伊藤綾美
4年 荒田雪羽 5年 片桐優太 6年 中根蒼粋

銀賞 1年 片桐礼乃、川上敬大 2年 荻山朔、小林愛奈 3年 塚田楓花
4年 荻山七緒、中根詩 5年 熊谷更加 6年 大島珠令、太田花

第6ステージ(1, 2月)

まとめ

自分や学級の1年間の成長をまとめよう!

まとめって、
どうい
いかな?

まとめ

バラバラな
ものを一つに
する。

学級のまと
めは学級目
標です。

始業式の話より